

# JIFAS NEWS



Japan International Food and Aquaculture Society

〒302-0131  
茨城県守谷市ひがし野 2-1-1001  
TEL & FAX : 0297-44-4487

E-mail : jifas@sage.ocn.ne.jp

http://www.jifas.net

## 水産業の成長産業化に向けた研究・技術開発の高度化をめざして

水産技術研究所は、増養殖生産を中心とした幅広い分野における技術開発を主な目的として、2020年7月、水産研究・教育機構の組織再編により、水産資源研究所とともに発足しました。これまで異なる研究所で行われていた養殖や環境などに関する研究所を一つの組織に集約し、基礎から応用までの研究を一貫して進めます。

当研究所は、「養殖部門」と「環境・応用部門」の2部門体制です。養殖部門では、農林水産省の養殖業成長化総合戦略で戦略的品目とされたクロマグロや、種苗生産が難しいウナギの養殖技術の高度化をはじめ、飼料開発や育種研究に取り組みます。環境・応用部門では、環境変動をとらえつつ水産資源の増殖を見据えた沿岸・内水面生態系に関する研究や漁場造成、AIなどの手法を取り入れた工学及び利用・加工分野の研究、脱酸素社会を見据えた新たな技術開発の取り組みます。

また、新たな体制では、「企画調整部門」を設置し、部門間や他機関との連絡・調整を図ることにより、研究成果の社会実装の進展を目指します。さらに、当研究所種苗生産・飼育技術は、重要魚種の初期生産に関する新たな知見を水産資源研究所に提供することを通じて、資源評価の高度化への貢献が期待できます。このように、私たちは、水産資源研究所や他機関とも連携し、安全・安心な水産物の提供と安定した生産基盤の確立を目指しています。(vol166 FRA NEWS 10)



水産技術研究所長  
水産技術担当理事

青野 英明

## 新たな魚介類の養殖技術を研究

南北に長い日本列島では、さまざまな種類の水産生物が食用に利用されています。一方、天然資源は減少傾向にあり、水産物の安定した生産と供給を担う養殖の重要性が高まっています。養殖生産では、地域の新たな食材や商品を生み出すことも期待されています。養殖



人工的に飼育した着底したばかりのマゴ

を行うには、卵をふ化させて人工的に種苗を生産する技術（種苗生産技術）が必要です。マダイや、ヒラメ、サーモン類では種苗生産技術がほぼ確立され、大量に種苗が生産されています。一方、養殖対象として期待されながら、いまだに種苗生産技術が確立されていない魚介類もたくさんあります。生産技術部では、このような水産生物に対する種苗生産技術の開発研究に取り組んでいます。



水産技術研究所長  
養殖部門 生産技術部長

崎山 一考